

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年5月10日

【四半期会計期間】 第48期 第1四半期 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)

【会社名】 株式会社スペース

【英訳名】 SPACE CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 佐々木 靖 浩

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋人形町三丁目9番4号

【電話番号】 03 (3669) 4008 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経営企画本部長 大 村 奈 々 子

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋人形町三丁目9番4号

【電話番号】 03 (3669) 4008 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経営企画本部長 大 村 奈 々 子

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第48期 第1四半期 連結累計期間
会計期間		自 2019年 1月 1日 至 2019年 3月31日
売上高	(百万円)	8,935
経常利益	(百万円)	493
親会社株主に帰属する 四半期純利益	(百万円)	334
四半期包括利益	(百万円)	295
純資産額	(百万円)	27,278
総資産額	(百万円)	36,941
1株当たり四半期 純利益金額	(円)	13.86
潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額	(円)	-
自己資本比率	(%)	73.81

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 当社は、当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度の主要な経営指標等については記載しておりません。
- 3 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について重要な変更はありません。

なお、当第1四半期連結会計期間より、SPACE JAPAN CO.,LTD.と株式会社エム・エス・シーの子会社2社の重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度との比較分析は行っておりません。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

財政状態の状況

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における資産は、369億41百万円となりました。

流動資産は、246億73百万円となりました。主な内訳は、現金及び預金が96億18百万円、完成工事未収入金が75億73百万円、未成工事支出金が59億58百万円です。

固定資産は、122億68百万円となりました。主な内訳は、有形固定資産が93億10百万円、無形固定資産が7億47百万円、投資その他の資産が22億10百万円です。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における負債は、96億63百万円となりました。

流動負債は、76億87百万円となりました。主な内訳は、工事未払金が49億13百万円、賞与引当金が3億63百万円、未払法人税等が2億57百万円です。

固定負債は、19億75百万円となりました。主な内訳は、退職給付に係る負債が16億55百万円です。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、272億78百万円となりました。主な内訳は、資本金が33億95百万円、資本剰余金が35億67百万円、利益剰余金が216億40百万円です。

経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間（2019年1月1日～2019年3月31日）における当社グループを取り巻く事業環境は、全体としてデフレマインドが継続するなか個人消費の節約志向は根強く、加えて人手不足の問題やネット通販の拡大による影響から、店舗出店に慎重な動きが続いております。また、物販店を中心に展開してきた商業施設はモノの購買目的だけでなく、時間消費を楽しめるような店づくりと演出が求められる環境へと変化してきております。この環境変化は、特に郊外型のショッピングモールにおいて顕著にあらわれ、物販店の新規出店が減少し、厳しい状況が続いております。

このような状況の下、お客様の抱える課題を解決するため、中期経営計画のテーマである「原点回帰」に基づきコストの削減及び人事制度の再構築並びに企業ブランディングを継続するとともに、目標達成に取り組んでまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は89億35百万円、営業利益は4億92百万円、経常利益は4億93百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億34百万円となりました。

なお、当社グループはディスプレイ事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載に代えて、市場分野別に記載しております。

市場分野別の売上高は次のとおりであります。

区分	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年 1月 1日 至 2019年 3月31日)	
	売上高 (百万円)	構成比 (%)
複合商業施設 ・総合スーパー	1,543	17.3
食品スーパー ・コンビニエンスストア	845	9.5
各種専門店	4,504	50.4
飲食店	1,046	11.7
サービス等	995	11.1
合計	8,935	100.0

当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、市場分野別の売上高について前年同四半期連結累計期間との比較は行っておりませんが、参考として提出会社の市場分野別の売上高について比較分析を記載しております。

(参考) 提出会社の市場分野別の売上高は次のとおりであります。

区分	前第1四半期累計期間 (自 2018年 1月 1日 至 2018年 3月31日)		当第1四半期累計期間 (自 2019年 1月 1日 至 2019年 3月31日)		増減	
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	増減率 (%)
複合商業施設 ・総合スーパー	1,478	13.6	1,501	17.0	22	1.6
食品スーパー ・コンビニエンスストア	1,242	11.4	845	9.5	397	32.0
各種専門店	5,453	50.2	4,465	50.4	988	18.1
飲食店	1,271	11.7	1,044	11.8	227	17.9
サービス等	1,412	13.1	997	11.3	415	29.4
合計	10,858	100.0	8,853	100.0	2,005	18.5

当第1四半期累計期間における市場分野別の主な状況は、食品スーパー・コンビニエンスストア分野では、市場全体として他業態との競争が激化するなか、食品スーパーにおいては新装案件の減少が影響したこと、コンビニエンスストアにおいては、ブランド転換工事の完了に加え、出店戦略の見直しが行われ、全体的に売上高が減少いたしました。各種専門店分野では、商業施設内のアパレルテナントについて新装案件が落ち着き、売上高が減少いたしました。サービス等分野では、ホテル関連施設の大型案件があった前年度に比べ新規出店が落ち着き、売上高は減少いたしました。

なお、当第1四半期累計期間については全体的に売上高が減少しているものの、受注高及び受注残高については堅調に推移しております。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売実績の著しい変動はありません。

(5) 主要な設備

当第1四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	44,736,120
計	44,736,120

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2019年5月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	26,600,319	26,600,319	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株で あります。
計	26,600,319	26,600,319	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

(ライツプランの内容)

該当事項はありません。

(その他の新株予約権等の状況)

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年3月31日	-	26,600	-	3,395,537	-	3,566,581

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	
議決権制限株式(その他)	-	-	
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,438,100	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 (単元株式数は100株)
完全議決権株式(その他)	普通株式 24,037,500	240,375	同上
単元未満株式	普通株式 124,719	-	同上
発行済株式総数	26,600,319	-	
総株主の議決権	-	240,375	

(注) 「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が、それぞれ4,400株及び61株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数44個が含まれております。

【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社スペース	東京都中央区日本橋 人形町3-9-4	2,438,100	-	2,438,100	9.17
計	-	2,438,100	-	2,438,100	9.17

(注) 株主名簿上は、当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が627株(議決権6個)あります。なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」欄の普通株式にそれぞれ600株及び27株含まれております。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)により作成しております。

なお、当社は当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、比較情報を記載しておりません。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2019年1月1日から2019年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(2019年1月1日から2019年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

当第1四半期連結会計期間
(2019年3月31日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	9,618,507
受取手形	1 1,040,247
完成工事未収入金	7,573,963
未成工事支出金	5,958,847
材料及び貯蔵品	138,653
その他	346,509
貸倒引当金	3,204
流動資産合計	24,673,524
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物（純額）	2,814,320
土地	6,107,911
その他（純額）	388,286
有形固定資産合計	9,310,519
無形固定資産	
のれん	241,235
その他	506,396
無形固定資産合計	747,631
投資その他の資産	
その他	2,275,859
貸倒引当金	65,828
投資その他の資産合計	2,210,031
固定資産合計	12,268,182
資産合計	36,941,706
負債の部	
流動負債	
工事未払金	4,913,710
未払法人税等	257,275
賞与引当金	363,500
完成工事補償引当金	31,701
受注損失引当金	7,620
その他	2,113,699
流動負債合計	7,687,507
固定負債	
長期未払金	317,677
退職給付に係る負債	1,655,003
その他	3,243
固定負債合計	1,975,924
負債合計	9,663,431

(単位：千円)

当第1四半期連結会計期間
(2019年3月31日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	3,395,537
資本剰余金	3,567,127
利益剰余金	21,640,166
自己株式	1,735,159
株主資本合計	26,867,672
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	480,970
為替換算調整勘定	11,225
退職給付に係る調整累計額	71,741
その他の包括利益累計額合計	398,004
非支配株主持分	12,597
純資産合計	27,278,274
負債純資産合計	36,941,706

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

当第1四半期連結累計期間
(自 2019年1月 1日
至 2019年3月31日)

売上高	
完成工事高	8,935,850
売上原価	
完成工事原価	7,749,192
売上総利益	1,186,658
販売費及び一般管理費	693,772
営業利益	492,885
営業外収益	
受取利息	1,454
受取配当金	252
受取地代家賃	1,208
その他	1,040
営業外収益合計	3,955
営業外費用	
支払利息	998
売上割引	1,359
支払手数料	1,199
その他	243
営業外費用合計	3,801
経常利益	493,039
税金等調整前四半期純利益	493,039
法人税、住民税及び事業税	225,619
法人税等調整額	69,005
法人税等合計	156,614
四半期純利益	336,425
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,497
親会社株主に帰属する四半期純利益	334,927

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月 1日 至 2019年3月31日)
四半期純利益	336,425
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	63,235
為替換算調整勘定	1,214
退職給付に係る調整額	23,913
その他の包括利益合計	40,535
四半期包括利益	295,889
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	294,392
非支配株主に係る四半期包括利益	1,497

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結会計期間より、SPACE JAPAN CO.,LTD.と株式会社エム・エス・シーの重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

(追加情報)

(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

当社は、当第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。四半期連結財務諸表作成の基本となる重要な事項は以下のとおりであります。

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数及び連結子会社の名称

連結子会社の数	2社
連結子会社の名称	SPACE JAPAN CO.,LTD. 株式会社エム・エス・シー

(2) 非連結子会社の数及び非連結子会社の名称

非連結子会社の数	1社
非連結子会社の名称	SPACE SHANGHAI CO.,LTD.

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を誤らせない程度に重要性が乏しいものであるため、連結の範囲に含めておりません。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用しない非連結子会社の名称

SPACE SHANGHAI CO.,LTD.

(持分法を適用しない理由)

持分法を適用していない会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等から見て、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の四半期決算日等に関する事項

連結子会社のうち、株式会社エム・エス・シーの四半期決算日は2019年2月28日であります。四半期連結財務諸表の作成にあたっては、連結子会社の四半期決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、四半期連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

なお、SPACE JAPAN CO.,LTD.の四半期決算日は、四半期連結決算日と一致しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

関係会社株式及び関係会社出資金

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの

当四半期連結会計期間末の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法にて算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

未成工事支出金

個別法による原価法

材料

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

貯蔵品

最終仕入原価法による原価法

(3) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

主な資産の耐用年数

建物	15年～50年
構築物	10年～40年
機械及び装置	2年～8年
車両運搬具	3年～4年
工具、器具及び備品	4年～6年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

長期前払費用

定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(4) 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額のうち当四半期連結累計期間負担額を計上しております。

完成工事補償引当金

完成工事に係る瑕疵担保の費用に備えるため、補償費の支出見込額を実績割合により計上しております。

受注損失引当金

受注業務における将来の損失に備えるため、将来の損失が見込まれ、かつ当該損失を合理的に見積り可能な受注業務に係る損失について、当四半期連結累計期間以降発生が見込まれる損失発生額を計上しております。

退職給付に係る会計処理の方法

従業員の退職給付の支給に備えるため、当四半期連結会計期間末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当四半期連結会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。

a. 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当四半期連結会計期間末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

b. 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、発生日より1年間で均等償却処理をしております。

数理計算上の差異は、発生年度の翌事業年度にて一括費用処理をしております。

c. 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 完成工事高の計上基準

完成工事高の計上は、当四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

なお、当四半期連結累計期間の工事進行基準における完成工事高は、570,116千円であります。

(6) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨換算し、換算差額は損益として処理しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

発生した連結会計年度以降5年間で均等償却しております。

(8) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日又は償還日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(9) その他四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第1四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

当第1四半期連結会計期間 (2019年 3月31日)	
受取手形	10,246千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

当第1四半期連結累計期間 (自 2019年 1月 1日 至 2019年 3月31日)	
減価償却費	86,431千円
のれんの償却額	15,077千円

(株主資本等関係)

当第1四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年3月26日 定時株主総会	普通株式	700,708	29	2018年12月31日	2019年3月27日	利益剰余金

(注)1株当たり配当額には創立70周年記念配当4円が含まれております。

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)

当社グループは、ディスプレイ事業の単一セグメントのため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年 1月 1日 至 2019年 3月31日)
1株当たり四半期純利益金額	13円86銭
(算定上の基礎)	
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	334,927
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	334,927
普通株式の期中平均株式数(株)	24,162,266

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載をしておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年5月7日

株式会社スペース
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 松 聡 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 佐々田 博 信 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社スペースの2019年1月1日から2019年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(2019年1月1日から2019年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(2019年1月1日から2019年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社スペース及び連結子会社の2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。